

令和5年度 学校評価 自己評価書(1学期)

1 学校の重点目標

- (1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心の育成 (3) たくましい心と体の育成 (4) 活力ある学校経営
(5) 学びの教育環境づくり (6) 信頼される学校・教師 (7) 家庭や地域との連携

2 評価結果と改善策【4段階評価:(最高4)】

	重点目標	具体的な実践項目の評価	1学期	2学期	3学期	評価結果と改善策
1	確かな学力の育成	「分かる」「できる」「楽しい」授業の構築（ICT機器の積極的・効果的活用）	2.78			<ul style="list-style-type: none"> ○ 「分かる」「できる」「楽しい」授業と学び合いとなるよう授業改善を図る。 ○ タブレットのより効果的な活用法を先進校等から学んだり、校内研修の充実を図ったりしながら、ICT機器の積極的活用をさらに推進していく。 ○ 「学力スタンダード」を活用するとともに、1単位時間や1単元の目標を明確にした教材研究を行う。
2		「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践（言語活動の充実）	2.89			
3		「何ができるようになったのか」の把握と明確化（桜洲小基礎学力スタンダードの活用）	2.67			
4		仲間づくりが根底にある学び合いによる学力向上の追究	2.89			
5		職員研修の充実（校内・校外研修会への積極的参加と報告書での全体還元、UDの研究・実践、複式指導の研究）	2.90			
6		幼・保・小・中一貫教育の実践（幼・保・小連携、小・中連携）	2.75			
7	豊かな心の育成	生徒指導の充実（いじめ等の未然防止と早期発見・早期対応、望ましい人間関係づくり、命の教育）※SST・SGE、「学校たのしいと」の活用）	3.44			<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科で並行読書を積極的に取り入れるとともに、「わくどき20冊（推薦図書）」の読破に向けて、保護者と連携しながら本好きな児童の育成に努める。 ○ 個人の目標をもって学校行事等に参加させたり、事後の振り返りを確実に رفتりすることで、達成感や成就感を味わわせるとともに、自尊感情を高められるようにした結果、レジリエンスの育成につながっている。 ○ 自己の成長を実感できるようにするために、「自分史ノート」(キャリアパスポート)を積極的に活用していく。
8		心に届く道徳教育の推進	3.22			
9		読書指導の推進（読書量・質の向上、親子読書の啓発）	3.00			
10		人権尊重の精神を基盤とした学級経営（Momの実践）	3.50			
11		特別支援教育の充実（支援体制の整備と理解促進、就学指導の充実）	2.78			
12		自尊感情の高揚につながる「折れないしなやかな心（レジリエンス）」の育成	3.25			
13	自己実現を図る特別活動の推進（キャリア教育・環境教育・読書指導との関連）	2.78				
14	たくましい心と体の育成	学校体育の充実（一校一運動の継続実施、運動量を増加させる体育学習の推進）	3.22			<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校保健委員会で取組実践事項を話し合い、学校と家庭で連携しながら保健指導の充実を図る。 ○ 発達段階に応じて、防火・防災教育の意義を伝え具体的な危険箇所や場面を想定させながら安全指導の徹底を図る。 ○ 手洗いうがい・換気の徹底など、基本的な感染症予防に今後も取り組んでいく。
15		保健指導の充実（「あははほう運動」による生活リズムの確立、むし歯治療・メディアルール設定の啓発）	3.00			
16		安全指導の充実（安全教育の計画的な実施、KYTの実施）	3.22			
17		食に関する指導の充実（各教科等での指導、家庭での正しい食習慣の育成、食物アレルギーの把握と対応）	2.75			
18		生命尊重を基盤とした防火・防災（減災）教育の充実（考えさせる避難訓練）	3.11			
19		病気や感染症の予防に関する教育の充実と実践の日常化	3.11			

20	活力ある学校の創造	組織的・協働的な学校運営（協働する職員態勢の確立）	2.89		<ul style="list-style-type: none"> ○ 三主任を中心に、縦と横の連携を図りながら、効率的に仕事を進めていく。 ○ 総合的な学習の時間を中心に、歴史や風土、観光、産業など、桜島の特色を生かした学習内容を検討する。 ○ 1Action1Tryの取組を充実させる。
21		学校評価を生かした学校教育活動の改善（D-CAP）	3.13		
22		特色ある教育活動の推進（地域の素材・教育力を生かした教育活動の推進）	2.70		
23		職員の健康保持と職場環境の整備（働き方改革による業務改善の取組） ※ 1Action1Tryの取組充実	2.70		
24	学びの教育環境づくり	清掃指導の充実（無言作業、ゴミのない学校環境）	2.67		<ul style="list-style-type: none"> ○ 無言清掃の徹底指導を行うとともに、率先垂範による児童の掃除スキルの向上に努める。 ○ 一人一プランターなどによる花いっぱい運動に取り組ませながら、人権感覚の醸成を図る。 ○ ボランティア活動への関心・意欲を高められるようにする。
25		心を育てる学習環境の整備（学校図書館の充実、花と緑いっぱいの学校づくり）	2.80		
26		施設・設備等の計画的な整備	2.67		
27		どの児童にも優しい教育環境づくり	3.00		
28		青少年赤十字の理念の理解と活動の推進（ボランティア活動の充実）	3.10		
29	信頼される学校・教師	専門性を磨く自己研鑽（教科指導力・専門的力量的の向上、総合的人間力の育成、学級経営等の充実）	3.00		<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的に研究公開等に出席し、自ら授業力の向上に努める。 ○ 定時退校日だけでなく、日常的に適正な勤務管理ができるようにする。
30		自覚と矜持の心で臨む服務規律の厳正確保（参加型研修の充実、信頼される学校づくり推進委員会の活用）	2.67		
31		業務改善に向けた協働性の発揮（意識化・簡素化・効率化による取組、定時退校日の設定）	2.80		
32	家庭や地域、関係機関との連携	学校情報の積極的発信（学校便り、HP、ブログ、各種会議等での発信）と地域行事への積極的参加	3.00		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級便りの保管をし、ホームページ作成につなげ、どの学年も学習など紹介できるようにする。 ○ 児童の教育活動の充実を図るとともに、学校職員の業務改善の観点からも、コミュニティ協議会との連携を図っていく。 ○ 学級PTAや学級通信等で、児童の学習状況や生活習慣等について説明し、家庭で取り組む課題等について具体的に示しながら、協力をもらおう。メディアとの正しい付き合い方については、家庭でのルールを再確認させ、規則正しい生活が送れるようにする。
33		学校支援ボランティア事業活動の積極的推進	3.00		
34		「信頼される学校づくり推進委員会（不祥事根絶委員会）との意見交流・協議	2.63		
35		校区コミュニティ協議会との連携（コミュニティスクール・学校統合見本構想の確立）	3.00		
36		P T A活動の活性化（組織改正と実践、学級P T Aの充実、「おうしゅう運動」の取組）	2.88		
37		P T A・学校行事への協力と参加	2.90		
38		家庭の教育力の向上（家庭教育の充実、基本的生活習慣の確立）	3.10		
39		学級通信や各種便り等での情報発信と教育相談による情報交換・指導の充実	3.11		
40		公的機関や各種団体との情報交換等による連携の推進	2.89		
			2.95		

3 次学期に向けての取組

- 「分かる」「できる」「楽しい」授業と学び合いとなるよう授業改善を図り、学習効果が上がるようにしていく。
- タブレットを含むICT機器の活用法について研修を深めていく。（どの教科等・場面で、どのように活用していくか。）